

五の仙女集

是則

小大

五







與風集

寛平御時の中宮乃和哥合々

[illegible]

立田川のみちをたづねてふかきうらにや
源山よりわたりくまの文をそとれむおもひ
後
いづくに我名はしらぬとれしつゝおもひくは
同演人など
秋の野に露もともむ女郎もさへ人あはれつれす
女師花とれのらりわこまれし秋よめこそあらむゆめ
さても乃親王の后れみずかきもあけな
は清屏風のあは様のともかんころ
うつふる家月日はおほしき花みくらにまねく
花のまもわけしじよめといふあひくあひて
物ひらりやはおもひのあはれにたれにぞ
つりはげしものもつとぞ

[illegible][illegible]

拾 花のまううーさめまふまのさうこのさうさく

れりー哥合は桃

みちをさうさめまふまのさうこのさうさく

鶯ていーの流るる合は

つものさくさのさうさくこのさうさく

松のさくさのさくさく

拾 ぬきりさくさのさくさくこのさうさく

夏 けいさく

拾 山のさくさのさくさくこのさうさく

秋 時ぬ 露山河おきく 菊 雁

ていーの流るる合は

この時ぬさくさのさくさくこのさうさく

露 秋の節はあかきさくさく

雉乃 雉乃さくさのさくさくこのさうさく

にほさくさのさくさくこのさうさく

山 秋山のさくさのさくさく

秋乃 秋乃さくさのさくさくこのさうさく

秋の 秋のさくさのさくさく

い 秋乃さくさのさくさくこのさうさく

みち

後 秋乃さくさのさくさくこのさうさく

秋乃さくさのさくさく

はらのとれ多からむはとれはつぬくもたわよけ

紅葉大井のよちつめすわち

紅葉乃ちりてあふらん井にせむのちうはけそああん

みちをたふしうせい立田に水のたをこたつてうへ

菊さくの花乃ちうらん大井にれ行幸に

かきとへ今つさうけうけりふいばのういふもあやとらん

鴈さひの鳥大井のちきよ

いくし甲あつるまねあれとにきおのひもあつるのたらん

かりてたれ山田のいふらんうせいたたそたれたれあ

冬 雪 吹

やまのうらふちけり時おのちあなれ

おむをわりぬの月とらんそよ名野のふもあつる白雪

あつる東よまうちてやとるあつ

みづのふちうおはのほしあつてくたつあつち

ふちち

冬の池乃ちふにらんそよ月のうちいん

いんこけもね

あつてあつたのちあつたあつたあつたあつたあつた

窓とつたあつたあつたあつたあつたあつた

つものうらなつらんあつたあつたあつたあつたあつた

我恋むくぬのふたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

春風ふらふてらん板の花だうもあらねばよのあら
中納の命めとてふれりうらハ月もさうさうに
おほさるうもくもあはれ

はなはたしきうもくもあはれ
あ

あはれさうもくもあはれ
えあはれさうもくもあはれ

あはれさうもくもあはれ
あはれさうもくもあはれ

あはれさうもくもあはれ
あはれさうもくもあはれ

あはれ

あはれさうもくもあはれ

あはれさうもくもあはれ

あはれさうもくもあはれ
あはれさうもくもあはれ

あはれ

あはれさうもくもあはれ
あはれさうもくもあはれ

あはれさうもくもあはれ
あはれさうもくもあはれ

一、

一、

武隈の松も、
平五年の、
着れやけ、
一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

秋のあけつゝのうららかに
おのづから

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

わが心は
わが心は

[illegible]

とわれを

ちうひくもわつしなのおー海さうふ神のさるる様うもえん
世中さうあまいさうせんさいの病をもんく

うへうまをいふせうをいふていふていふの
お中へいふていふのあけさうな

ふ川うきふきの花をわたりて今に
ふくぬくぬくこの花をわたりて

やれど

[illegible]

危道のまじなみのつゝさういふはあはれ
なりと移して

うやとらうまわし山崎の海はうぬ人まらひ
五月五日

くらもにわいぬほのむとふれちやうーあゝぬ
 ああうとてこぬ人のゆめもふれぬ

あゝおのれ御そぞろの面をうゝとちひな
れもくみうつひくたふおへーあ

きつとてふ

君よりわれもたゞ露のやうな世をくらねぬ
あこやといふ人よりいふもあつたうといふ

いふはふとふれいふてあふ

ぬきまをうへもそへぬ若橋をゆく乃のそよひは
 ひそら乃のそありしよりれゆし

何人のうちにいそがしき者よりいそがしきものなるを
お解人のいそがしきものなるをいそがしきものなるを

とてみうらみゆゑてれ

[illegible]

生人子

いふにむかし此のねえりあふせり
まゐくゆゑを給ふらうなりと人あす

二五三

花すふはあなをうたへてむさふせん

九月より十月に

大空のひかりをなびかすにやうなてりやうらん

心

今更つとてお神のうれううなる城はけり

いふに

あはれとせらるる人の世はうつろひなり

あつたふりておれりやまゝのまゝ

محمّد بن عبد الله

七月廿八入道より此のみならず我々もよく

若むきばうひんたれぬの敷よみくらうく
ね

あつてはなれど
あつてはなれど

ねむいものをつまみ喰ふよとす

心もいふにあらむのよらひのこゝろを

2

うさぎのふりふり

己卯年

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

うづのわとさなをきくのうとてふ

世にふち別へせぬ浪月社のなほわづらへ思

と云ふの君やと云ふてあることと云ふ

つたふひうりなりぬきあのもうきふれ武隈の
雲

[illegible]

子

わー

21

ちりきりて又わらんもさだに物もふさねもろくろわん
 十月はさす人の菊もさうろくひらるるをらんく
 作くくわんひらけしき月もさうろくまのくまのて
 子日れそ女のもにひらけろくろわん

女 21

のあふれはもろくはいつまでも
はいつのたまはめいじくは月一時の

[illegible]

秘
多
好
一
も
な
い
可
き
か
へ
さ
る
を
お
し
や
う
と
し
て
し
め
す

去
文
の
ま
た
は
あ
ら
わ
せ
る
に
よ
り
て
し
め
す

なるを以て

ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふん

2

君はくもれひうきあひなれうきさおわうくらま
おとゆふこしのうきやうきと君よりぬく世をうた

湖へう般のふゝさきうのふまぢり
もろ

七

らそをすきゆへ

とうありたり殿上人ぐのほそ、ぬ

行ふあはれあはれ

と多岐なわけをもせらる

人々今もあはれにまゐるをうたひ

まゝと人のまゝをみる

ふける

なぐこのけりあふあふあふあふあふあふあふ
おれあひにうたえあふあふあふあふあふあふ

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

うちはあつちへねえ、
 此中、将月といふが

مجلس ۱۰۰

やまのうへにうみせいのめいふもどろろり

わづらのやみのあふれあふれあふれあふれ

わかれはせうりう

むさうのうにまひうまのうま残る

清きれ 病のいぢらも ぬききて ねの事のと

りるにすけ
あけきえはる
あけきえはる
あけきえはる

土師の白に花のまじりも
 あり乃ほむ　このまじりも

あきのはれ
月はいかに
あきのはれ
あきのはれ

小大君仙王

丁
子
卯

